



安全衛生委員会 2024 年度年間報告書

株式会社鈴木油脂

環境事業部 安全衛生委員会

対象期間：2024年6月～2025年5月

目次

| | |
|----------------|------|
| 1.はじめに | 3 |
| 2.今年度の目標 | 3 |
| 3.委員会の構成 | 4 |
| 4.活動内容の記録 | 5～10 |
| 5.成果と評価 | 11 |
| 6.課題と反省点 | 11 |
| 7.次年度への提案・改善計画 | 12 |

1.はじめに

当社では、2023年の新工場移転を機に、環境事業部においても安全衛生委員会を新たに設置いたしました。これは、法令上の義務を超えて、全従業員の安全と健康を守る体制を強化するための自主的な取り組みです。

2.今年度の目標

今年度は「労災ゼロ」を目指し、取り組みました。

結果：工場内労災ゼロ、工場外労災 1 件

3.委員会の構成

委員メンバー：7名

- 安全管理者
- 衛生管理者
- 各部門より1名選出

サブメンバー

- 歌川工場 安全衛生委員会より2名

4.活動内容の記録

| 52期 年間活動記録 | |
|------------|----------------------------------|
| 6月 | 安全衛生委員会の設立と今後の方針決定 |
| 7月 | ヒヤリハット事例の募集・対策の検討、注意喚起ワウトーク配信開始 |
| 8月 | 出勤時健康チェック項目の追加、簡易ベッド設置 |
| 9月 | 体調不良による長期離脱防止対策の検討、事務所内安全対策の推進 |
| 10月 | ゲートリフターからの転倒防止対策の検討、建物内危険箇所改善の推進 |
| 11月 | トラック内注意喚起ステッカーの配布 |
| 12月 | 体調管理啓発ワウトーク発信、うがいセット設置・喉スプレー配布 |
| 1月 | 突発休防止の対策、今後の方針 |
| 2月 | アンケートの実施方針決め、ドラム破損防止策の推進 |
| 3月 | アンケートの配信・集計、9カ月間の取り組み振り返り |
| 4月 | 毎週の健康注意喚起メール発信、来期の方針決定 |
| 5月 | 年間活動記録の作成 |

● 労災防止とヒヤリハットの可視化

- 重大事故の未然防止を目的に、日常の危険箇所を把握する活動を開始。
- ヒヤリハット専用フォームを設置し、100件以上を収集・キントーンで随時閲覧可能とした。
 - 事例例：「強風で缶やダンボールが飛ぶ」「段差で台車が傾く」「フォークリフトとの接触未遂」など。
- 荷台からの落下による労災発生後は即座に再発防止策を実施。トラック庫内には注意喚起のステッカーを作成、添付。



●健康管理の強化と熱中症対策

- 熱中症ゼロを目指し、以下の取り組みを実施：
 - 体調不良の早期察知の為朝の健康チェックを業務課・工場で開始
 - OS-1 の配布、クールベストの貸与
 - 石田工場にも本社工場同様に、体調不良時用の救護用ベッド設置
- 突発的な欠勤による現場影響の軽減を図るため、「体調不良時は早めに上長に連絡する」ルールを全体へ周知。
- 体調不良による長期離脱発生を受けて、自己管理・病院受診の指針を明文化・周知し、出発前の運転日報チェック欄を拡充。（以下項目を追加）

| 業務課・営業課 運転日報 | | | | | |
|--------------|-------------|--------------------|----|---|----|
| 朝の健康チェック | | ①食事はよく食べれているか | | | |
| | | ②昨日は良く眠れたか、時間は充分か | | | |
| | | ③体調悪くないか（風邪・腹痛・頭痛） | | | |
| | | ④薬を飲んでいるか | | | |
| | | ⑤昨日はお酒をたくさん飲んでいないか | | | |
| 免許証 | 朝の健康チェック ○× | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| | 食事 | 睡眠 | 体調 | 薬 | 飲酒 |
| | | | | | |

●防災・環境整備活動

- 水害を想定した避難訓練（土のう積み）を実施
- 体調不良時の休み連絡ルールの周知
- 年末繁忙期に向けた注意喚起ポスター掲示
- 工場見学前の清掃活動（転倒防止）を行い、安全な導線を整備



● 情報発信・教育活動

- 年末の体調不良・欠勤防止策として、うがい薬の設置とポスター掲示で注意喚起。
- 社内への健康情報発信を継続し、体調管理の意識向上を図った。

いつも以上に 手洗いうがいをしましょう！

・手洗いうがいはどうして大切？
手では様々なものに触るのでそこから病原体が手についてしまい、のどは空気中からの病原体がくっついてしまいます。そのため病原体を減らすために手洗いうがいが必要になります。

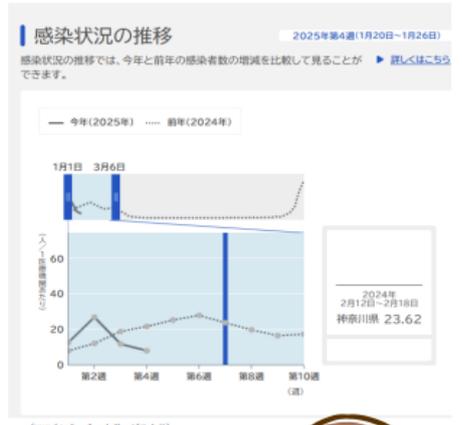
・正しい手洗いの仕方

- 1 水をよく手をゆすいで石けんをつけます。
- 2 手のひらをよくすって洗います。
- 3 手の甲をのぼすようにこすって洗います。
- 4 指先、爪の間を手のひらでこするように洗います。
- 5 両手を組むようにして指の間を洗います。
- 6 親指を反対の手でねじるように洗います。
- 7 手首をねじるように洗います。
- 8 十分に水で洗い流します。
- 9 清潔で乾いたタオルでよく拭き取りましょう。

・正しいうがいの仕方

- 1 口に水を飲んで強めにフタを口を押さず吐き出します。
- 2 次は水を口に含んで上を向き、15秒ほどのどまででつづつうがいをして吐き出します。
- 3 もう一度同じように水を口に含んでつづつうがいをして吐き出します。

引続きインフルエンザが流行しています。
他人事と問わず、しっかり感染予防をしましょう！！



季節の変わり目にも 注意しましょう！

急に気温が上がると鼻がつまったりくしゃみや連発したり...
これはもしかして、アレルギー？

それは、**寒暖差アレルギー**かも!!

太い血管のおどる首を冷やさないのがポイント!!

外出時には
帽子やマスクも!!
スカーフやストール(首)
長そで(手首)

寝るとき
マスク、ネックウォーマーであたかへ

少し暖かくなっても首は守ってね♡

花粉もあいますが...

安全衛生委員会

4月は気温の変化が激しく
自律神経が乱れやすい時期です

仕事に疲れたときのリフレッシュ方法

| | |
|-----------|------------------------------|
| 好きなことをする | バランスのよい食事をとる |
| 親しい人と過ごす | 自分へのご褒美を用意する |
| 適度に身体を動かす | SNSを離れて意識的にリフレッシュの時間を取ることが大事 |

Personal File

自分の体を労わり
いつも以上に体調管理に
気を付けましょう！

うがい、手洗い
忘れずに！

安全衛生委員会

● 意識向上とアンケートの実施

- 安全衛生委員会の認知度や現場の要望把握、安全意識の状況確認のため、3月にアンケートを実施。
- 主なアンケート結果は以下の通り：

「職場で危険を感じたことはあるか？」

| 項目 | 件数 |
|---------------------|----|
| 滑りやすい床による転倒 | 7 |
| 車両関連（トラック、フォークリフト等） | 5 |
| 物の落下・衝突 | 7 |
| 怪我のリスク（缶の切り口、火傷等） | 5 |
| なし | 13 |

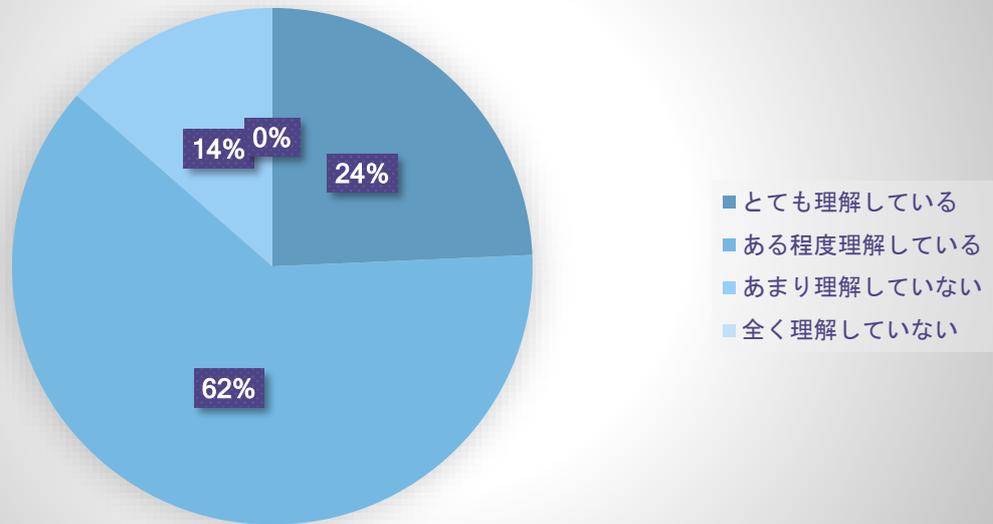
「日常業務で安全に気をつけていることはあるか？」

| 項目 | 件数 |
|-----------|----|
| 指差呼称・確認作業 | 4 |
| 車両・移動時の注意 | 3 |
| 環境整理・整頓 | 2 |
| 健康管理 | 2 |

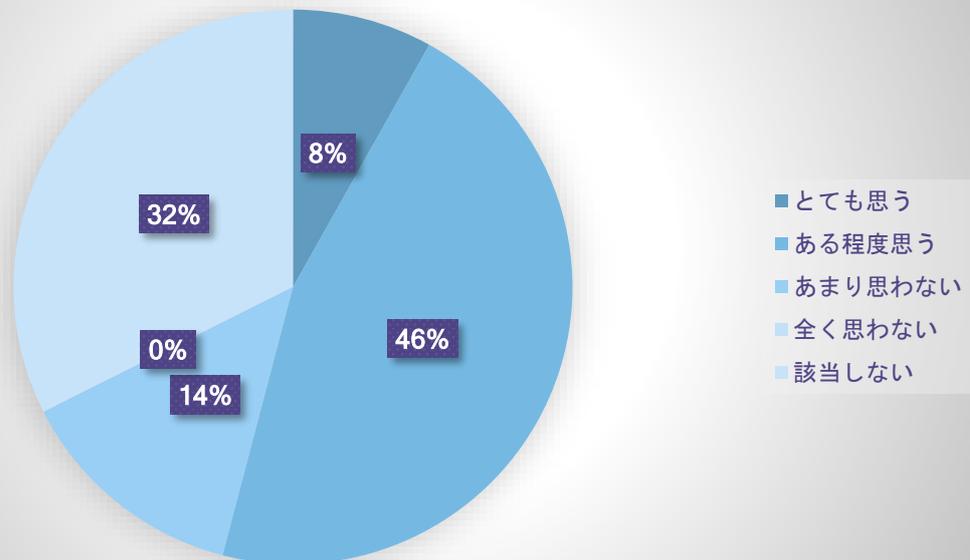
「安全意識向上に有効だと思う取り組みは？」

| 項目 | 件数 |
|------------------------|----|
| 教育・啓蒙活動（動画・ポスター・KY活動等） | 8 |
| 情報共有強化（他工場事例・アンケート） | 6 |
| 委員会の交代制（全員参加型） | 5 |
| なし | 12 |

安全衛生に関する取り組みの理解度



ヒヤリハット事案の対応に効果はあったか？



5. 結果と評価

| 項目 | 結果 | 評価 |
|----------|---------|--|
| 労働災害発生状況 | 1件発生 | 重大事故の未然防止という観点では一定の成果が見られたが、荷台作業における安全対策（足場・声掛け・作業手順）の見直しが続けられなければならない。 |
| 熱中症対策 | ゼロ達成 | 効果的な初期対応策は行えたが、来期も継続すべき。高温時作業ルールの整備でさらにリスク低減を図る余地がある。 |
| 突発休対策 | 仕組み定着 | 突発休連絡の仕組み化による効果が確認できたが、来期も継続が必要。代替人員調整など連携強化が今後の課題である。 |
| 感染症対策 | 年末時ゼロ達成 | 習慣化と継続的な啓発が有効だった。今後はインフルエンザ・コロナウイルス等の感染症の流行時期に備え、対応策の季節変動を加味した柔軟な体制が求められる。 |
| 委員会の効果 | 安全意識向上 | 可視化・啓発活動により全社的な安全意識の底上げが図られたが、フィードバック体制の強化により、さらなる浸透が必要である。 |

6. 課題と反省点

◆対応が十分に行えなかった事項

- ・ 講習会参加者による社内への情報展開が実施されていない
- ・ 新入社員に対する安全教育体制が整備されていない
- ・ 安全衛生委員による主体的な活動の定着が進んでいない

◆実施したが効果が限定的であった事項

- ・ 危険箇所における声かけの実施について、十分な効果が得られていない
- ・ トラック庫内に掲示した安全表示（ステッカー）の視認・活用が不十分
- ・ 定期的なKY活動（危険予知活動）への参加状況に偏りが見られる

7.次年度への提案・改善計画

工場内の安全表示を拡充し、「見てわかる安全」を目指す

新人社員のヒヤリハット体験の共有を通じ、現場の当たり前を見直す

ドラム缶管理の徹底による油流出事故の根絶

健康情報の定期発信を継続し、体調不良による欠勤予防を推進

年4回の安全パトロール実施、事業部ごとの避難訓練を実施

年2回のヒヤリハットアンケート実施

e-ラーニングによる教育訓練の実施

強化月間に沿った注意喚起ワウトークの発信

労働災害の発生を防ぐため、来期も「労災ゼロ」を基本方針として取り組んでまいります。